

株式会社クロスデザイン

最新の技術でワンソース・マルチユースを実現する Adobe® Creative Suite® 4 Design Premium

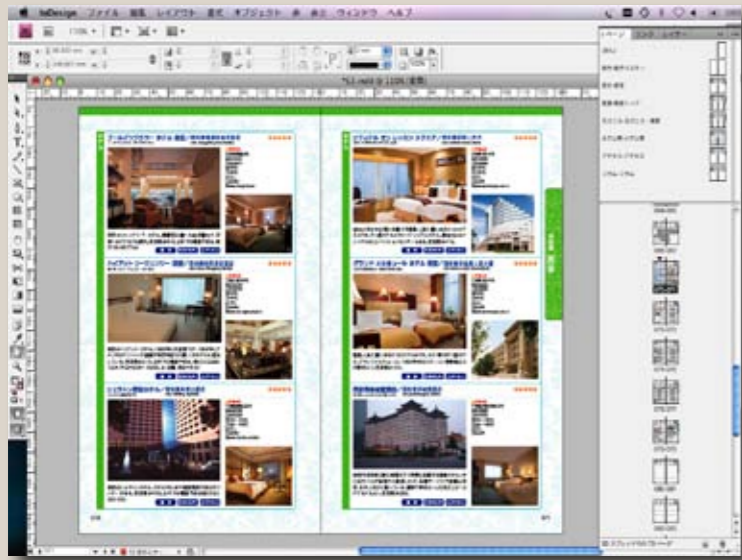
複数のメディアに対応したデザインツール
Creative Suite 4の真価が、発揮される時



アートディレクター 黒須 信宏氏

いくつものアプリケーションを活用し、デザインだけにとどまらずに常に新しいソリューションを創造するマルチ・クリエイターが居た。

複数のメディアに対応したデザインツールである Creative Suite 4を使いこなし、ひとつのソースを無駄なく利用することで、メディアを超えたトータルデザインが実現された。



データベース上の情報をInDesign上に読み込み、自動的に割付を行なった画面。



データベースの内容は、管理用Webページにて一覧で見ることができる。ボタンをクリックすると、その内容を更新することが可能だ。



サンプルとして作成した情報掲載用Webページ。紙媒体のデータとリアルタイムにリンクしている。



黒須氏が、データベースのアップデート用に開発した管理画面。ここで更改された内容は誌面やWebへダイレクトに反映される。現在Flex版を構築中。

東京の白金に事務所を構えるアートディレクターの黒須信宏氏は、これまでに多くの書籍やWebサイトのグラフィックデザインを手がけてきたベテランデザイナーだ。多くのデザイン会社がそうであるように、黒須氏の事務所でも紙媒体からWebデザインまで幅広いデザイン業務に対応している。通常、デザイナーがWebプログラムの作業まで担当することは稀だが、黒須氏はWebサイトのXHTML+CSSコーディングはもちろんのこと、データベースの構築から、FlashやFlexの制作、そしてXMLを利用したデータ更新のためのCMS制作と、メディアを問わず幅広く対応している。したがって、デザイナーというよりはマルチクリエイターの存在といえるかもしれない。そこで今回は、黒須氏にAdobe CS4 Design Premiumを活用した最新のソリューションを紹介してもらうとともに、黒須氏が考える今後の展開を伺った。

最新バージョンのCS4で作業効率がアップ
ハードやソフトが日進月歩の勢いで進化を続ける商業デザインの世界だが、黒須氏は最新バージョンのアプリケーションを利用するよう心がけていると言う。

「現在はCS3とCS4を混在させて使用しています。CS3を使用しているのは、主に紙媒体の仕事で印刷所などの都合でバージョンを合わせる必要があるためですが、最終出力が汎用的なソースコードとなり、制作中のアプリケーションバージョンの影響を受けにくいWebの仕事では、多くの作業にCS4を使用しています。」

CS4は細かい部分で使いやすくなり、結果として作業効率が向上したそう。たとえばIllustrator CS4では、透明の属性を含んだグラデーションを使えるようになったことで、これまでいくつかの手順が必要だった作業も一回で済むようになった。またマルチアートボードは、Webデザインの基本デザインをする際に、異なるモニターサイズを想定したデザインに有利だという。

「ハードウェアの進化が以前より緩やかになってきた現在、ソフトウェアというはより確実にリターンが予想できる設備投資です。使い込むほどに仕事に生きてきますし、今後もソフトウェアへの投資は効果的にやっていきたいと考えています。」

時代に合わせたソリューションを展開
黒須氏が最新のアプリケーションを利用する背景には、様々な案件で紙媒体からインターネットメディアに移行していった時代背景も大きいという。

「紙媒体がメインであった広告・出版業界も、徐々にWebに対するウェイトが大きくなり、双方で情報を共有する必要が出てきました。今後は逆にWebメインのコンテンツから紙媒体へ展開する、という流れも出てくるでしょうし、そうした時代の移り変わりに対して、敏感に反応する必要性を感じています。」と黒須氏は語る。

また、以前であればWebのメンテナンスも含めて仕事を依頼されることが多かったが、企業がより効果的な情報発信をする上で、クライアント企業内で直接情報更新をしたいというケースが増えてきたそう。こうしたニーズに積極的に対応するため、アプリケーションの持つさまざまな機能を利用して、新しい展開をアピールすることが重要であると黒須氏は語る。

「もともと好奇心が旺盛なので、新しいバージョンがリリースされたりすると、すぐに試してみたくくなります。便利な機能が出ると、すぐに何かに使えないかなって考えます。」

新しい技術に対する柔軟な姿勢を持つことが、次のアプローチを生み出す原動力となるようだ。

データベースを構築して利便性をアピール
このように、最新の動向に敏感な黒須氏は、ある出版社で実験的な試みを提案したそう。書籍版の『地球の歩き方』のレイアウトデザインを担当する黒須氏は、専用の管理Webページから紙媒体のデータを更新するシステムを制作した。これにより、ライターが地球上のどこにいてもインターネット回線さえあれば即座にテキストや画像を更新することができる。しかも更新に必要なデータベースの設定からプログラムの作成まで、黒須氏が制作したというから驚きだ。

「弊社による『地球の歩き方』制作ワークフローでは、ライターさんに直接データベースのテキストデータや画像を編集してもらい、InDesign上に自動組版を行っています。最新データはデータベースとInDesignで常に同期しているので、拡張すれば情報公開用Webページとも同期できると思い、自動組版とクロスメディアを両立するシステムを作ってみました。」

これまでもワンソース・マルチユースを基本としたソリューションを展開する会社や企業はあったが、個人レベルで同様のソリューションを作り上げた例はなかった。

「Web業界でCMSは当たり前になっています。その気になれば紙媒体の情報管理もCMSに移行できますし、InDesignとWeb制作を長く扱ってきた知識を生かせばスマートなクロスメディア制作のワークフローが作れると思っています。」

便利な新機能を活用して作業時間を削ることで、クリエイティブに使える時間を増やしたいんです。

アートディレクター 黒須 信宏氏

会社データ
株式会社クロスデザイン
東京都港区
<http://www.crossdesign.jp/>

自動組版・クロスメディア制作システム
<http://crdn.jp/lepus/>

チャレンジ
ひとつのデータソースから複数のメディアに対して、最新情報を展開させる

ソリューション
SQLとPHPを組み合わせて、独自のCMSを制作

ベネフィット
データベースを利用して、データソースの一元管理化を実現

Tool Kit
・ Adobe® Creative Suite® 4 Design Premium



黒須氏がデザインを手がけた書籍。(装丁のみ、本文デザインのみ、装丁+本文デザインのものも混在) 手前の三冊は、InDesignに詳しい同氏が執筆した著書だ。著書の多くは自らデザインを担当している。

「ステキになったとか、すごく便利になった、と感動されることが何より嬉しいですね。」と語る黒須氏。

品質を向上させつつ、顧客満足度を高める

より多くの仕事をこなしつつ、品質を向上させるためには、単純な作業をできるだけ自動化し、クリエイティブな時間をより多く確保することが有効だと黒須氏は言う。

「自動化したいというと、ただ単に楽をしたいと思われがちですが、本質はそこではないですね。いや、確かに飲みに行く時間が増えることもとってもうれしいんですが(笑)。本来であれば単純作業に費やされる時間を、自動化によって削減して、よりクリエイティブな作業に時間に割くことで、クオリティを向上させることが自分にとって一番大事なんです。」

アプリケーションが持つ機能で利用できるものは利用する。そうすることで機能に対する知識が深まり、作品にも反映されれば、より良い結果となって返ってくるということだ。

「結局、紙媒体のデザインでもWebサイトでも、また新しいワークフローでも、作ることが好きなんです。新しいものを作って、きれいになったとかステキになったとか、便利で使いやすくなったと感動してもえれば、また新しいことにチャレンジする意欲が沸いてきますよね。」

デザインは、見た目以外にもいろいろな形で人の心や行動に直結することができるかと信じている、と黒須氏は語ってくれた。

今後の展開と将来への取り組み

臨機応変にソリューションを展開する黒須氏だが、今一番興味のあるソリューションはどのようなものなのだろうか。今後の展開を伺ってみた。

「現在、印刷入稿後の画像差し替えなどに対応する必要もあることからInDesignデータで入稿することが多いですが、PDF入稿のウェイトを増やしてもいいかな、と考えています。PDF入稿に移行することで、制作アプリケーションを気にすることなく入稿できる部分は大きなメリットですね。あとはやはり『地球の歩き方』でプレゼンしたように、紙面とWebを同一データベースで連携させたワンソース・マルチユースのソリューションでしょうか。InDesign、Webサイト、モバイル向けFlash Liteなど、データソースを統合することでスマートなメディアミックス戦略ができるようになるので、従来より圧倒的にスピーディーで低コストなマーケティングにつなげられると思うんです。現在、CMSをPHP+XHTMLで動かしていますが、FlexやFlashを使ってよりリッチなものにしたら面白いと思って、今進めているところです。」

紙からWebへ、Webから紙へとメディアを問わず活躍する黒須氏の視線は常に先を見通しているようだ。今後、同氏からは、どのようなアイデアが生まれてくるのか。活躍を期待しよう。